

大豆栽培技術情報

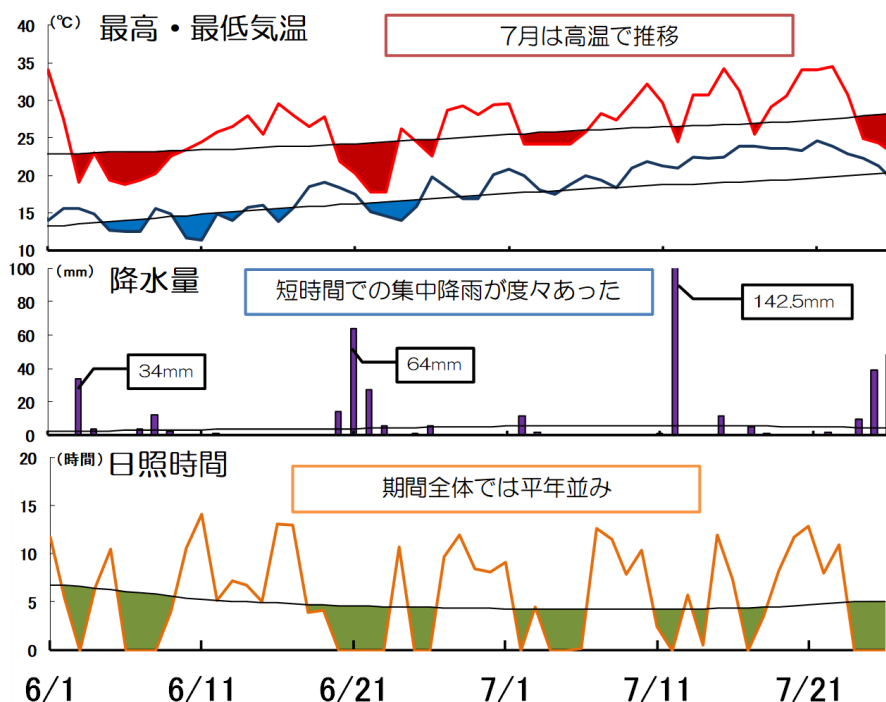
令和8年 一第1号

令和8年8月4日発行
宮城県登米農業改良普及センター
TEL: 0220-22-6127

<http://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai>



1. 6月～7月の気象（アメダス米山）



- 平均気温は6月は平年並に推移しましたが、7月は平年に比べて高く推移しました。特に7月中旬は3.3℃高くなりました。
- 降水量は、6月上旬にまとまった降雨、6月下旬と7月中・下旬に大雨があったため、6月と7月ともに降水量は平年に比べて多くなりました。
- 日照時間は、降水量の多かった6月上旬、7月中・下旬に平年に比べて少なくなっています。

		6月			7月		
		平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
上旬	本年値	17.9	48.7	56.5	22.3	26.4	13.0
	平年値	17.9	61.5	27.9	21.4	29.7	38.9
	平年差・比	0.0	79%	203%	1.0	89%	33%
中旬	本年値	20.1	72.3	16.0	25.6	51.4	161.0
	平年値	19.0	49.2	36.4	22.3	44.0	57.0
	平年差・比	1.2	147%	44%	3.3	117%	282%
下旬	本年値	19.9	48.9	104.5	24.9	31.8	99.0
	平年値	20.2	44.8	46.8	23.5	56.4	47.3
	平年差・比	-0.3	109%	223%	1.3	56%	209%
月	本年値	19.3	169.9	177.0	24.2	139.4	273.0
	平年値	19.0	155.5	111.1	22.4	142.7	160.9
	平年差・比	0.3	109%	159%	1.8	98%	170%

2. 管内の大豆の状況

表 生育調査結果（7月24日現在）

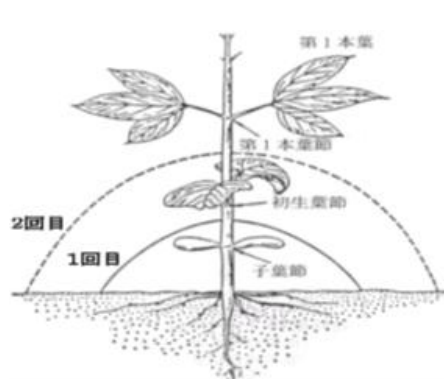
		播種期	主莖長 (cm)	主莖節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	栽植密度 (本/㎡)
ミヤギシロメ (中田町)	本年	6/16	26.8	5.9	0.2	12.6
	前年値	6/18	36.0	10.0	1.5	14.7
	平年値	6/19	29.4	8.0	0.4	12.9
【参考】すすみのり (登米町)	本年	6/18	30.2	6.8	0.9	10.3

※平年値は、過去5か年の平均値

- 大豆の播種は5月下旬から開始されました。断続的な降雨があったことから、出芽は概ね良好でしたが、播種のタイミングによっては土壤水分が多い期間が長期化して、湿害により播き直しが行われたほ場も見られます。
- 降雨のため中耕培土に入れず、雑草が目立つほ場も見られます。
- 管内ミヤギシロメでは、主茎長、主茎節数、分枝数とも前年を下回っています。

3. これからの栽培管理

1) 中耕・培土 … 梅雨の晴れ間をぬって計画的な作業を行いましょう！



< 普通栽培 >

- 1 回目：本葉2～3葉期に子葉節が隠れる高さまで
- 2 回目：本葉6～7葉期に初生葉が隠れる高さまで

< 晩期栽培（麦後作） >

本葉5～6葉期に初生葉が隠れる高さまで

図1 中耕培土の目安

- 倒伏防止、不定根の発生による生育促進・増収、除草、排水と通気性の改善等の効果がありますので、必ず実施してください！！
- 生育量が多いとき、蔓化したときに培土の高さが足りないと倒伏を招きますので、最終培土時は確実に初生葉の上まで土を寄せてください。
- 遅い時期の培土は断根や生育遅れを招きますので、最終培土は開花 10 日前までに終了してください。

2) 雑草対策

- 不十分な耕起や播種後の降雨により、土壤処理剤の効果が不十分で、雑草が発生しているほ場が見受けられます。中耕培土の他、除草剤散布による対策を検討してください。
- 茎葉処理剤は、必ずほ場ごとに草種や雑草の大きさ、発生程度を確認し、高い効果が得られる剤を選択してください。また、大豆への薬害や雑草への効果を勘案しながら、適切な時期に散布するようにしてください。

※来年度作での対策となりますが、アサガオが問題となっているほ場では、耕起前（は種 10 日前以前）ラウンドアップ散布→播種前トレファノサイド乳剤土壌混和→耕起後播種の体系が効果的です。

茎葉処理剤の処理時期・効果の目安（詳細は、宮城県「普及に移す技術」第94号を参照）

	アタックショット乳剤	大豆バサグラン液剤	パワーガイザー液剤
シロザ	4葉・5cm まで	2葉・3cm まで（中）	◎
ホソアオゲイトウ	6葉・10cm まで	3葉・3cm まで（中）	◎
イヌホオズキ	10cm まで	6葉・5cm まで（中）	◎
オオイヌタデ	2葉・3cm まで	15cm まで（高）	◎（イヌタデ）
アメリカセンダングサ	－	20cm まで（高）	◎～○
オオオナモミ	4葉・10cm まで	6葉・15cm まで（中～高）	◎～○（オナモミ）
アレチウリ	5葉・つる化前まで	5葉・つる化前まで（中）	○～△
マメアサガオ	4葉・つる化始まで	3葉・つる化始まで（中）	◎～○
アメリカアサガオ	2葉まで	2葉まで（低）	◎～○
イチビ	6葉・15cm まで	6葉・15cm まで（高）	◎～○
クサネム	1葉・2cm まで	－	△
ツククサ	－	－	△～×

注1) 大豆バサグラン液剤欄の（ ）は、低日照時の除草効果の安定性を示す。

注2) パワーガイザー液剤の詳細は、BASF ジャパン(株)「パワーガイザー液剤技術資料」を参照。

参考：茎葉処理剤の使用時期

農薬名	使用時期	備考
大豆バサグラン液剤	だいの2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期）	
アタックショット乳剤	本葉2葉期～開花前（雑草生育期）	展着剤不要
パワーガイザー液剤	出芽直後～3葉期まで（雑草発生始期～2葉期）	展着剤不要

※大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤は収穫45日前まで

※記載している農薬情報は令和8年7月22日現在のものです。使用に当たっては最新の登録状況を確認の上、周辺の農作物への飛散等に十分注意してください。

【注意】アタックショット乳剤は、メーカーの都合により当面の間製造中止となっており、今作の購入が難しくなっています。ただし、事前に購入済みで使用期限内のものは、使用してかまいません。

3) 水管理 … 天気に応じて暗渠を開閉しましょう！

- 大豆は開花期以降、最も多くの水を必要とし、不足すると落花・落莢や百粒重の減少により減収しやすくなるので、晴天が続く過乾燥となる恐れがある場合は、暗きよの水閘を閉じて水分保持（地下かんがい）する等の対策を行ってください。
- 大雨の際、水がほ場の外に早く流れるよう、明きよが確実に排水溝に繋がっているか、途中でごみなどが詰まっていないかを確認してください。

4) 適正な追肥 … 生育量に応じて追肥を検討しましょう！

- 湿害で葉色が薄い、生育が極端に悪く根粒菌がついていないなどのほ場では、最終培土時に緩効性肥料、または、開花期に速効性肥料を追肥します。
- 基肥に窒素成分は5kg/10aを基準とし、生育状況に応じて増減します。なお、一発肥料を使用している場合は原則として追肥は不要です。
- 窒素が多いと根粒菌の働きが悪くなりますので、生育が順調で根粒菌がしっかりついているようなほ場では追肥は必要ありません。

5) 開花期以降の病害虫防除

…**病害虫の発生状況に応じて農薬を散布しましょう!**

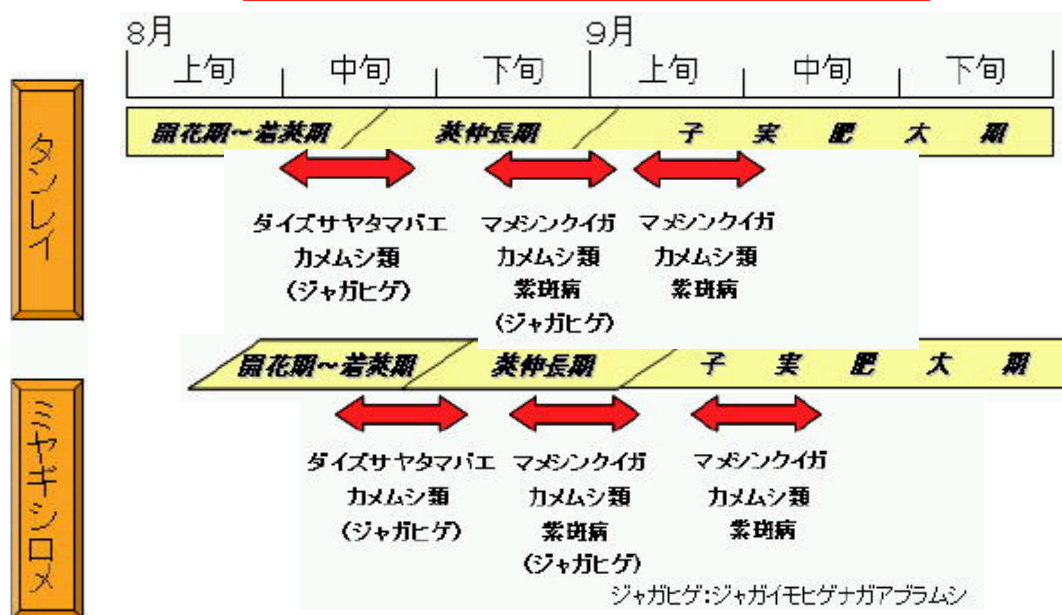
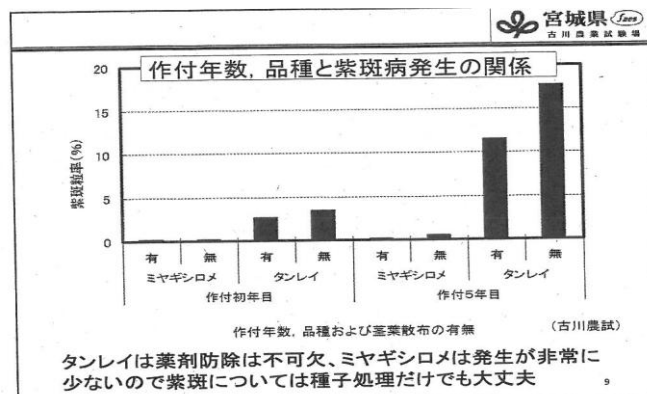
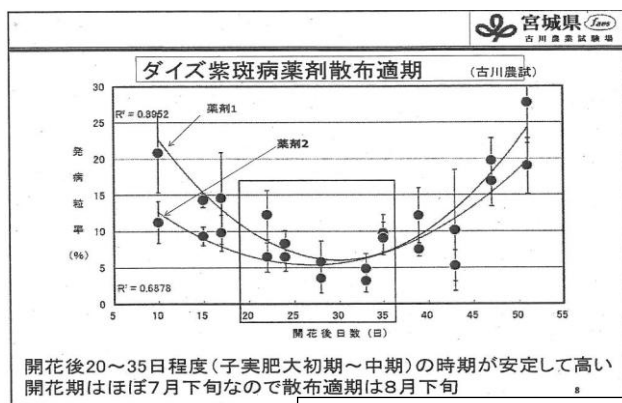


図2 大豆病害虫の防除体系（防除時期と対象病害虫）※病害虫防除所作成を一部修正

- 7/23 に病害虫防除所から発行された発生予報第4号では、紫斑病の発生量は平年並み、吸実性カメムシ類の発生量はやや多い、フタスジヒメハムシの発生量はやや少ない となっています。

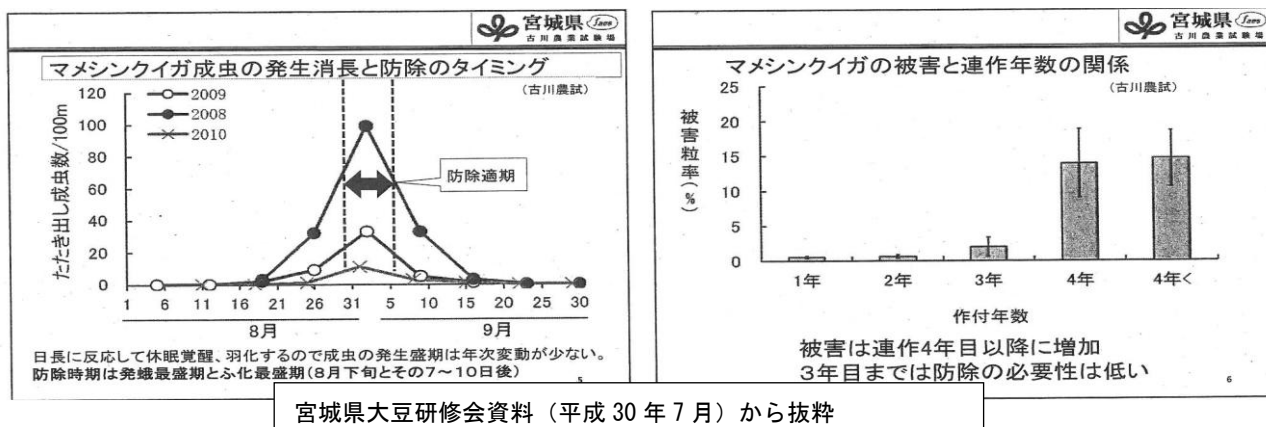
紫 斑 病



宮城県大豆研修会資料（平成30年7月）から抜粋

- 紫斑病防除のタイミングは開花 20～35 日後程度です。
- 紫斑病抵抗性は、タチナガハ・ミヤギシロメ・すすほのか・すすみのりが「強」、あやこがね・タンレイが「中」となっています。紫斑病防除は、「強」の品種については1回、「中」の品種については2回防除（1回目の防除後7～10日後に2回目防除）しましょう。
- 同一薬剤の連用は耐性菌が発生しやすいので避けてください。

マメシクイガ



宮城県大豆研修会資料(平成30年7月)から抜粋

- ・連作年数の多いほ場(3年以上)では、マメシクイガ中心の防除体系を組み立てましょう。
- ・マメシクイガ防除は成虫発生盛期に1回目、1回目の7~10日後に2回目の防除が基本です。
- ・マメシクイガは同一地域内での発生に年次変動が少ないので、防除は毎年同じ時期に行い、その他の病虫害防除は大豆の生育に合わせて行ってください。

フタスジヒメハムシ

- ・子実に黒色の斑点が生じる他、大豆の生育期間中に葉を食害(円孔状)します。作付1年目でも発生します。播種時の初期防除が有効ですが、開花期前から発生が見られた場合は、カメムシ類等と合わせて、子実肥大期の8月下旬~9月上旬に防除を行います。



タバコガ類

- ・ツメクサガ、ウコンノメイガ等、突発的に発生する害虫があります。特徴は幼齢幼虫による葉の食害で、ミヤギシロメで多い傾向が見られます。通常より葉の食害が多く見られたら、JAや普及センターに御相談ください。

農薬危害防止運動実施中(令和8年6月1日から8月31日まで)

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため農薬は適正に使用しましょう。